

第34回災害対策本部員会議での知事の主な発言

1. 会議冒頭の発言

- 一昨日と昨日、古賀本部長・西田副本部長とともに、被災地の公立病院を訪問するとともに、漁業関係者や農業関係者からお話を伺ってきた。

被災地の公立病院は、医療スタッフの方々も被災者であり、看護師や検査技師等のマンパワーが不足している。

私からは、地域医療の拠点としての機能を維持していくため、今後、半年程度、必要となる人的・物的支援、施設改修等を県に報告いただくよう求めたところであり、これを踏まえ、国や関係団体の力もお借りしながら迅速に対応したい。

また、輪島市と穴水町での漁業関係者、農業関係者との意見交換会には、坂本農林水産大臣に参加いただき、復旧・復興に向けた力強い支援のお言葉をいただいたところであり、感謝申し上げたい。

改めて申し上げるまでもないが、能登の農林水産業の再建なくして、能登の復興はない。政府の支援パッケージに盛り込まれた様々なメニューも活用し、きめ細かな支援をお願いしたい。

- これまで申し上げてきたとおり、ホテル・旅館等の2次避難所は、今後の予約状況等により、受け入れ期限のある施設がほとんどである。そのため、避難されている皆さんに、今後の応急的なお住いの確保の選択肢について情報提供するとともに、インフラの復旧状況や被災者生活再建支

援制度などの様々な支援制度についての説明会を開催する。

具体的には、明後日、2月7日（水）から順次、各施設等において2次避難者向けの説明会を開催し、今後の意向をお伺いすることとした。

- 被災地での一般の方々によるボランティアについては、本日時点で、2万1,500人を超える方々に事前登録いただいております、心から感謝申し上げます。

これまで、穴水町、七尾市、志賀町、珠洲市、中能登町の2市3町で、事前登録のボランティアの方々に活動していただいている。新たに、能登町において、2月8日（木）からの活動開始に向け、本日、募集を開始した。

また、輪島市と羽咋市においても、今週末の2月10日（土）からの受け入れを開始する。募集については、2月7日（水）から開始することとなった。

何度も繰り返しなるが、各市町において、ニーズ調査が完了した箇所から徐々にボランティアを受け入れているので、ボランティアを希望される方は、事前登録をいただいたうえで、募集の案内をお待ちいただきたい。

当面、一般ボランティアの方には、金沢からバスでまわって被災地に入らせていただくので、改めて、個人的なボランティアで、個別に能登に入ることはお控えいただきたい。

2. 会議最後の発言

- 政府の支援パッケージについては、国・市町・関係団体と連携のうえ、情報収集を進め、可能なものから順次、速やかに実行に移してください。
- 来年度の当初予算は骨格的予算となるが、当面、必要となる地震関連予算を令和5年度の補正予算とともに、しっかり手当することが復旧・復興に不可欠であり、丁寧かつ迅速に作業を進めてください。議会に対しても、丁寧に説明をお願いしたい。
- 被災地の首長や住民、事業者としっかり対話し、創造的復興に向けた取り組みを加速させてください。
- 冒頭に申し上げた、2次避難者への意向確認・調査を、市町と協力し、丁寧かつ迅速に進めてください。市町との情報共有も丁寧に行ってください。